

耐 暑 性 野 菜

食用ヘチマ（トカドヘチマ）

東南アジアはもちろん、沖縄、鹿児島県などでも幼果を野菜として食している。食用ヘチマには通常のヘチマと近縁種のトカドヘチマがある。暑さに強く、作りやすいことから今後の夏野菜として期待される。

■栽培のポイント

① 作期

3月中旬～4月に播種し、晩霜の恐れがなくなる5月ごろ定植する。収穫期間は7月～9月くらいである。栽培期間中は高温期の乾燥に注意する。

② 収穫適期

高温期は果実伸長が早いので注意する。なお、15cm程度から収穫可能である。

■露地でのつくり方

1 ほ場準備と基肥

つる性であるため、棚やパイプハウスの骨組みを利用した立体栽培を行う。10a当たりの施肥量（成分）は、N10kg、P₂O₅10kg、K₂O 10kgを標準とする。追肥中心の栽培を行う場合、適宜肥料を少なくする。

2 播種・育苗

播種箱等で25～28℃で発芽させ、子葉が展開したら12cm程度の鉢に鉢上げする。育苗期間は昼間20～30℃、夜間15℃を目標に温度管理をする。

3 定植とその後の管理

本葉5～6枚展開の頃に、畝幅300cm程度、株間1.5～2mで定植する。定植後は基本的に整枝はしないが、混み合ったつるや古葉は適宜取り除く。着果は草勢が安定してからとし、基本的には人工交配は必要としない。また、取り遅れ果や曲がり果の発生防止のため、着果した果実は早めにアーチや棚から引き出す。病害果や不良果は早めに適果する。

追肥は収穫開始ごろから適宜行い、1回に10a当たり各2kg程度とする。

4 病虫害防除

病気には、比較的強くつくりやすいが、ヨトウムシの防除が必要である。

5 収 穫

果実が15cmくらいから収穫可能であり、長くても50cm以内で収穫、出荷する。

非結球ハクサイ

中国原産のアブラナ科植物で、中国や台湾で小白菜として栽培されている。耐暑性が強く生育が早い特徴があり、夏場の葉物野菜として期待される。

■栽培のポイント

- ① 安定生産のため基本的に雨よけ栽培とする。なお、害虫対策など管理に労力を要するので、ハウスサイドに防虫網を設置する。
- ② 夏場は収穫適期が短いので計画的な作付けを行う。

■つくり方

1 基 肥

10a当たりの施肥量は、堆肥2,000kg、石灰100kgその他三要素成分量でN15kg、 P_2O_5 15kg、 K_2O 15kgを標準とする。

2 播種とその後の管理

100～120cmの畝に、条間15～18cm、株間15～20cmで3～4粒ずつ播種し、本葉3～5枚程度のころに間引きを行い、1本仕立てとする。

灌水は発芽～間引きまで充分し、均一な生育にさせる。また、夏場の灌水は比較的気温の低い時間帯に行うようにする。

3 病虫害防除

病気には比較的強いが、キスジノミハムシやヨトウムシ等の害虫防除が必要である。

4 収 穫

播種後25～30日、草丈25cm程度になったときが収穫適期である。高温期であるため暑くならないうちに収穫を終えるようにする。